

(社) 日本原子力学会 標準委員会 システム安全専門部会
第13回 PLM 分科会 (P14SC) 議事録

1. 日 時 2010年2月24日(水) 13:30~16:00
2. 場 所 原子力安全基盤機構 別館 11階 11C,D 会議室
3. 出席者 (敬称略)
(出席委員) 鈴木(主査), 文能(幹事), 新井, 楠, 矢野, 下家, 田中,
荒芝(田村代理), 菅野(大崎代理), 皆川, 酒匂(萬年代理), 西山,
利沢, 松浦, 今村, 三山, 橘高, 原(佐野代理), 石井(米山代理),
渡邊(20名)
(欠席委員) 大木(1名)
(常時参加者) 中川
(傍聴者) なし
(事務局) なし
4. 配付資料
P14SC-13-1 第12回PLM分科会議事録(案)
P14SC-13-2 標準委員会決議投票時の意見対応(案)
P14SC-13-3 PLM実施基準201X年追補版の編集上の修正(案)
P14SC-13-4 PLM実施基準201X年追補版のまえがき(案)
P14SC-13-5 PLM実施基準2008年版の英訳版レビューの分担(案)
P14SC-13-6 PLM分科会活動スケジュール(案)

P14SC-13-参考1 第7回システム安全専門部会議事録
P14SC-13-参考2 PLM分科会メール審議資料
P14SC-13-参考3 第8回システム安全専門部会議事録案
P14SC-13-参考4 第39回標準委員会議事録案
P14SC-13-参考5 PLM実施基準201X年追補版(案) (標準委員会決議投票資料)
P14SC-13-参考6 標準委員会決議投票結果
P14SC-13-参考7 システム安全専門部会における標準策定スケジュール
P14SC-13-参考8 システム安全専門部会合同タスク紹介資料
5. 議事
会議に先立ち, 出席委員は代理を含めて19名(1名途中出席)であり定足数を満足している旨確認した。
(1) 前回議事録確認

文能幹事より、第 12 回 PLM 分科会議事録（案）（P14SC-13-1）が紹介され、承認された。

（2）前回分科会以降の状況及び標準委員会決議投票時の意見対応（P14SC-12-2）

文能幹事より、P14SC-13-参考 1～5 に基づいて、前回分科会以降の状況について説明がされた。

また、文能幹事より、P14SC-13-2 に基づいて、標準委員会決議投票時の意見対応（案）について説明が行われ、一部表現を見直して了承された。次回システム安全専門部会までに、本対応案を以て意見者に確認しておくことになった。

（3）PLM 実施基準 201X 年追補版の新たな編集上の修正

文能幹事より、P14SC-13-3 に基づいて、PLM 実施基準 201X 年追補版の新たな編集上の修正（案）について説明がされ、修正内容がわかりやすいよう資料の備考欄に説明を加えて、システム安全専門部会に諮ることが了承された。（会議終了後学会事務局と調整した結果、本内容は、編集上の修正というよりは、誤記修正として扱う方が適切であろうということになった。）

また、文能幹事より、P14SC-13-4 に基づいて、PLM 実施基準 201X 年追補版のまえがき（案）について説明がされた。主なコメントは以下のとおり。

- ・経年劣化メカニズムまとめ表の仕様や適用方法に変更がないこと、及びその他の国の技術評価における要望反映が技術的な内容でないことは、記載しなくてもよい。
- ・最新知見・運転経験をすみやかに反映することを記載すれば、国の技術評価の要望反映のことは記載しなくてもよい。
- ・「新たに総合エネルギー調査会原子力安全・保安部会高経年化対策検討委員会で審議された 5 基」の記載は、追補版の解説 A-1 の記載に合わせて、「平成 19 年 11 月から平成 20 年 10 月末までに、原子力安全委員会に報告された 5 基」とする。
- ・“実用発電用原子炉施設における高経年化対策実施ガイドライン”が平成 20 年に改定されたことを記載する。

（4）PLM 実施基準 2008 年版の英訳

文能幹事より、P14SC-13-5 に基づいて、PLM 実施基準 2008 年版の英訳版レビューの分担（案）について説明がされた。主なコメントは以下のとおりであり、これらを考慮した英訳の理由書及び分担（案）を次回分科会で審議する。（2010 年 9 月の標準委員会に報告できるよう、レビューを終える予定；会議終了後、解説を含めて英訳する場合、6 月頃までかかる予定であることを学会事務局から確認した）

- ・附属書 E の分担者が少ないので、附属書 A（別冊）の 1 名（電力委員）を移す。
- ・附属書 C の分担者は、各委員の専門分野を考慮して、事象毎に決める。

- ・解説のみ英訳しないのではなく、規格としては規定・参考・解説一式を英訳した方がよい。
- ・本基準のみ特別に国外へ発信するために英訳するのか、すべての標準を英訳していくのか原子力学会からの説明が必要。また、今後のスケジュールや追補版の英訳が都度必要になるのかなどの議論が必要。
- ・国外へ販売する・しないを含めて必要性を考えるべき。
- ・スケジュールは、H22年度の追補版検討に合わせて実施していく予定。

(5) PLM 分科会活動スケジュールなど

今後 PLM 基準に関する各課題について、以下のように活動していくことが確認された。

- ・配管減肉耐震の規格策定に伴う、PLM基準への反映については、規格策定メンバーより検討状況を次回分科会で紹介してもらい、PLM 基準の改定を検討する。
- ・運転初期からの経年劣化管理からの知見反映については、反映時期及び方法のルール化を次回分科会で審議する。
- ・経年劣化を考慮した耐震安全性評価については、改定作業の進め方を次回分科会で審議する。

(6) その他

石井委員代理より、“実用発電用原子炉施設における高経年化対策実施ガイドライン”による PLM 基準 2008 年版のエンドースが遅れている状況について紹介があった。

文能幹事より、P14SC-13-参考 8 に基づき、システム安全専門部会合同タスクの設置について紹介があった。

6. 今後のスケジュール等

次回分科会開催日を、5月12日（水）午後に仮決めした。

以上